

『ダイワ・コモディティインデックス・ファンド(ジム・ロジャーズ世界探検記)』

ジム・ロジャーズ氏 インタビュー

大和証券投資信託委託株式会社

11/9(金)に米国において、ジム・ロジャーズ氏にインタビューを行いました。その収録内容についてファンドレターとしてまとめましたので、ご参考までに紹介いたします。

※下記は同氏の見解であって、ファンドの将来の運用成果を約束するものではありません。

●コモディティに関して

Q: 原油相場について(短期的)

例年、北半球の夏期休暇時のガソリン需要期およびハリケーンの到来時期を過ぎ、北半球の冬場のヒーターオイル(暖房用燃料)需要期に入る前の今の時期は、原油価格が弱含む傾向があります。本年の場合は原油価格が90ドル台に達し、過去最高価格を更新していますが、原油価格はそのまま強いと考えますか、それとも例年とは異なり北半球の冬以降に調整に入るのでしょうか、今後の見通しをお聞かせ下さい。

A: この季節に原油価格が下落する傾向があるとは知らなかった。実際そうなるというよりは、人々がそう言っているだけではないだろうか。でも覚えておこう。原油価格は、現在の高値を維持し、そしてさらに今後上昇するだろう。これが質問に対する私の答えだ。しかし、最近1バーレル98ドルの過去最高値をつけた原油価格が今すぐに上昇するかどうか、私には分からない。

通常、今回の原油価格のように価格が一直線に上昇した場合には調整があるものだ。石油を買っている投機家がいることは、皆が知っている。投機家の数が多すぎれば調整する局面はあるものだ。私は、この四半期には価格調整があるとみていた。でも何が起きるかは誰も分からない。もしアメリカがイランを攻撃するとか、あるいはそれに似たようなことが起きれば、原油価格は価格調整をせずに高値を保つかもれない。私は石油を保有しているが、売ることは考えていないし、売ろうとも思わない。原油は数年にわたって強気市場が続く、原油価格はさらに上昇するだろう。

Q: 原油相場について(短期～中期・長期)

需給面で見えた場合、新興国の需要が引き続き見込まれますが、一方で省エネの推進、代替燃料の供給増加が見込まれます。需給の変化を踏まえて今後の中期的な見通し(半年～1年)をお聞かせ下さい。

A: 新興国の原油に対する需要は継続する。新興国は商品価格上昇の恩恵を受けて、繁栄しており、彼らは石油を使い続けるに違いない。今後、より多くの代替エネルギーが利用されるだろう。しかし代替エネルギーによっても、それが風力発電であろうが太陽発電であろうが、また原子力発電であろうが我々が抱えるエネルギー問題を今後しばらく解決することはない。もし東京の全住民が風力発電や太陽発電を利用すると決めたとしよう。でも全員に太陽発電を設置するまでに数十年かかるだろう。

代替エネルギーの将来は明るい、エネルギーの問題は長期間解決されない。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。

販売会社についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212 (営業日9:00～17:00 半休日9:00～12:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

Q: RICI指数の構成目のうち、短期的(今後半年)および長期的(今後1年後)に対指数比でアウトパフォーマンス(超過)が得られると予想される商品は何でしょうか?その理由をお聞かせ下さい。また、逆に指数をアンダーパフォーマンス(劣後)すると予想される商品は何でしょうか?その理由をお聞かせ下さい。

A: 前にも言ったように農産物は、まだ価格が抑えられている。一方、そのファンダメンタルズ(基礎的指標)は、ポジティブ(肯定的)に変化している。私はここ2、3週間(注:インタビュー実施は11/9)に、ロジャーズ・アグリカルチャー(農産物)指数に連動するファンドを買い続けている。しかし、すぐに良い結果が得られるかどうかは分からない。

錫(すず)が良いかもしれない。錫は現在、史上最高値だ。6カ月前には鉛を勧めたと思うが、現在、価格は上昇し続けている。私は優れたマーケット・タイマーではないし、短期的なトレーディングは、からきしだめだ。

●世界経済に関して

Q: 最近、中東・北アフリカ地域に上場している株式に投資するファンドが注目を集めています。

アラブ首長国連邦(UAE)・エジプト・サウジアラビア等は原油価格の高騰に伴う国内における建設需要・消費・観光需要の増加もあって順調な企業業績の成長が見込まれますが、その反面、サウジアラビアの株価指数が昨年度に比べ暴落してほぼ半値になるような危うさもあります。

ロジャーズ氏はアラブ首長国連邦(UAE)・エジプト・サウジアラビアの株式への投資をどうお考えでしょうか?

A: 私は、中近東には投資していない。2年前には、中近東株にバブルがあった。それから回復するにはしばらく時間がかかるだろう。だから中近東は避けている。もし戦争が起きればすべての投資を失うことになるかもしれない。中近東に投資するようリスクをとらなくても、私には投資するところは世界中いくらでもある。もしあなたが中近東に住んでいて、そして事情によく通じているならば、もしかしたら、投資しても良いかもしれない。でも、中近東に投資するより良い方法は、むしろ原油に投資することだと思う。

Q: サプライム問題による世界同時株安を乗り越えて、中国本土株は上昇を続けております。その背景と今後の見通しについてお聞かせ下さい。

A: 私は1999年から中国株に投資している。2005年と2006年には中国株に対する投資をかなり増やした。中国株には、大きな調整があって欲しいとひそかに希望している。もし3月までに株価指数(上海総合指数)が9000ポイント台に乗せてしまえば、私は自分の中国株を売却せざるを得ない。しかし、もし3月までに4000ポイントまで下がれば、もっと中国株を購入するつもりだ。株式市場がバブルになれば、株は売却する。なぜならバブルは最後には崩壊するからだ。もし何かがバブルを抑止して、大きな価格調整があれば、そのときは追加投資する良い機会だ。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。

販売会社についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212 (営業日9:00~17:00 半休日9:00~12:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

Q: ブラジルは豊富な人口、豊かなコモディティ資源(大豆・さとうきび、鉄鋼石など)、製造業の競争力向上等から今後も経済発展が見込まれます。

ロジャーズ氏はブラジルの為替・株式相場の見通しをどうお考えですか、お聞かせ下さい。

A: ブラジルは、莫大(ばくだい)な資源を有しており、今後他の多くの国よりも繁栄し続けるだろう。資源コモディティに関する限り、その価格は上昇し続けるだろう。15年か20年後にコモディティのブームが去ったら、私はブラジル投資から退却する。しかし、当面、ブラジルは他の国に比べて良い投資先だ。

Q: 元の切り上げが引き続き見込まれるなかで、香港ドルの位置づけはどのようになると思われますか？また、香港ドルが人民元に吸収される可能性についてはどう思われますか？

A: 香港ドルは、合理的には説明できない現象の一つだ。香港ドルが存在する理由は既になくなってきている。私は、香港ドルは最終的に人民元に吸収されて消滅するのではないかと思う。しかし、いつ、どれくらいの為替レートで人民元に吸収されるのか、分からない。香港ドルが人民元に吸収されたとしても、香港の住民がそれで被害を受けることはないだろうし、また大儲けすることもないだろう。

Q: 2007年9月18日のFOMC(0.5%の利下げ)に引き続き、10月31日のFOMCにおいて再利下げ(0.25%の利下げ)を行いました。合計2回の利下げについてロジャーズ氏はどうお考えでしょうか？また、10月31日の再利下げでサブプライム問題についての解決の見通しはついたと思われますか？

A: 今回の利下げでは、問題を解決できない。FRB議長は世界で何が起きているのか全く理解していない。彼は米ドルをサポートしていないので、米ドルは、今後もずっと下げ続けるだろう。米国政府には米ドルを支援する人が誰もいないことを世界中の誰もが知っている。私が前から言い続けてきたとおりだ。米ドルは、しばらくの間上昇するかもしれない。もし米ドルの急上昇が起きたら、そのときは、私が持っている残りのすべての米ドルを売る機会となる。FRBの議長には何の手がかりもない。サブプライム問題は、金利を引き下げても解決しない。むしろサブプライム問題を解決したければ、金利は引き上げるべきだ。倒産するものはさせて、システムを一掃するのだ。1990年代の日本がしようとしたことだ。FRBは金利を引き下げて何とか持ちこたえさせようとしている。これでは問題は一層悪化し長続きするだけだ。FRBは、インフレを助長し、最終的には長期金利も上昇しよう、そして米ドルに壊滅的な打撃を与えているのだ。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。

販売会社についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212 (営業日9:00~17:00 半休日9:00~12:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

●日本市場に関して

Q: 2007年10月19日に行われた先進7カ国財務相・中央銀行総裁会議(G7)の共同声明において、政府系ファンドについての言及がありました。ロジャーズ氏は政府系ファンドの設立や運用についてはどうお考えでしょうか？また、日本は世界第2位の外貨準備額を有する国ですが、専ら米国短期国債中心の外貨準備となっています。日本も外貨準備を有効活用する手段の一つとして政府系ファンドを設立すべきだと思いますか？

A: 前から言っているように、私にはなぜ日本は米国国債を買っているのか全く訳が分からない。米国政府は毎日負債を積み上げ、日本はそれにセッセと投資している。異常な振る舞いだ。それでドルを支えてくれて、おかげで私がより高い値段でドルを売ることができることには感謝している。しかしこれは日本政府が長期間にわたり犯している本当に大きな間違いだ。私は日本人でもないし、日本の投票権もないが、米ドルと米国国債の購入はすぐ停止し、政府系ファンドでも投資の分散でも、とにかく何か別のことをするよう日本政府に強く要請したい。

●その他

Q: ロジャーズ氏が今年度(10月まで)最も注目した出来事は何でしょうか？また、その理由をお聞かせ下さい。

A: 最も注目をした出来事など何もない。中国にバブルが発生しつつあるか、コモディティはどうか、アメリカの問題はどうなっているか、私はすべてに目を配っている。10年前の1997年と1998年には問題はアジアから発生した。今回、世界の問題はアメリカから起きている。私が最も関心があるのは、これらの問題に対し米国自身がどう対応するか、それが世界中にどのように影響(決して良い結果ではない)するかということだ。

Q: 2008年度最もパフォーマンスの向上が見込める投資対象は何だとお考えですか？その理由をお聞かせ下さい。また、2008年度は全体として(特に経済・政治的に)どのような1年になるとお考えでしょうか？

A: 人民元、農産物、ことによると日本円、スイス・フランが良い投資先だろう。しかし、これらは2008年までに上昇してしまうだろうから、2007年には最良であるかもしれないが、2008年で最も優れた投資先かどうかは分からない。2008年は金融市場にとって良い年にはなるとは思わない。それが株式か、債券か米ドルかは分からないが、何か素晴らしく上昇し、何かは暴落する、そんな年になるのではないか。

「ダイワ・コモディティインデックス・ファンド(ジム・ロジャーズ世界探検記)」およびその関連ファンドであるケイマン諸島投資法人Global Commodity Markets Fund Ltd.(そのサブファンドである「RICI Portfolio」を含みます。),「ダイワ・オルタナティブファンド・シリーズ “RICI” 連動元本確保型ファンド(豪ドル建)2005-10」、Global Commodity Markets Fund 3 Ltd.(そのサブファンドである「ダイワ“RICI” ポートフォリオ3」を含みます。)(以下、当注記において、総称して「ファンド」といいます。)はJames Beeland Rogers、Jim Rogers またはBeeland Interests, Inc. (以下、当注記において、総称して「Beeland」といいます。)により提供、保証、販売または販売促進されるものではありません。Beelandはファンド購入者、すべての潜在的ファンド購入者、政府当局、または公衆に対して、一般的な証券投資、特にファンドへの投資の助言能力を、明示的にも暗示的にも、表明または保証するものではありません。BeelandはRogers International Commodity Indexの決定、構成、算出において大和証券投資信託委託株式会社およびその関連会社、またはファンド購入者の要求を考慮する義務を負いません。Beelandはファンドが発行される時期、価格もしくは数量の決定またはファンドが換金されるもしくは他の金融商品、証券に転換される際に使用される算式の決定または計算の責任を負わず関与もしていません。Beelandはファンドの管理、運営、販売、取引に関して義務または責任を負いません。「Jim Rogers」、「Rogers International Commodity Index」、「RICI Portfolio」および「RICI」は、James Beeland Rogers、Jim Rogers またはBeeland Interests, Inc.のトレードマークおよびサービスマークであり、使用許諾を要します。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。

販売会社についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212 (営業日9:00～17:00 半休日9:00～12:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

ダイワ・コモディティインデックス・ファンド (ジム・ロジャーズ世界探検記)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの特色

投資するファンドを通じて、世界のコモディティ(商品)価格の中長期的な上昇を享受することを目標に、主として公社債等に投資するとともに、商品先物取引(商品先渡取引を含みます。以下同じ)による運用を行います。商品先物取引による運用にあたっては、RICI(ロジャーズ国際コモディティ指数)の構成品目とその構成比率にできるだけ近似した商品先物ポートフォリオを構築し、RICIの動き(円換算)を反映した投資成果をめざして運用を行ないます。

ファンドにかかるリスクについて

投資信託証券への投資を通じて、主として商品先物取引、内外の公社債など値動きのある証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、商品先物取引、公社債などの価格下落や、発行企業・発行体の経営不安、倒産等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、為替レートの変動の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。基準価額の主な変動要因については、次のとおりです。①商品先物取引による運用に伴なうリスク ②公社債の価格変動(価格変動リスク、信用リスクなど) ③外国証券への投資に伴なうリスク(為替リスク、カントリー・リスクなど) ④その他(解約申込みに伴なうリスク、短期金融資産の信用リスクなど) これらのリスクを含むより詳細な内容は、投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」に記載しておりますのでご確認ください。

ファンドにかかる手数料等について

ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。

直接ご負担いただく費用

- ◆ 申込手数料 当ファンドの申込手数料の料率の上限は、2.1%(税抜2%)です。「分配金再投資コース」の収益分配金の再投資の際には、お申込手数料はかかりません。 ※詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- ◆ 換金(解約)手数料 換金(解約)手数料はありません。
- ◆ 信託財産留保額 信託財産留保額はありません。

保有期間中に間接的にご負担いただく費用

- ◆ 実質的な信託報酬(概算) 信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、ファンドの純資産総額に年1.947%(税込)程度の率を乗じて得た額とし、ファンドよりご負担いただきます。
- ◆ その他の費用 監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等をご負担いただきます。(その他の費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。)

※当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客さまが実質的に負担する信託報酬を算出しております。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「手数料等及び税金」に記載しておりますのでご確認ください。

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 社団法人投資信託協会
社団法人日本証券投資顧問業協会

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。

販売会社についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212 (営業日9:00～17:00 半休日9:00～12:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>